



皆さん、ご安全に！村田享子です。

3/9（木）、今国会初の質疑を経済産業委員会で行いました。「日本経済とものづくり」「構造的な賃上げ人材の定着」「特別高圧」について質問をしましたので、その模様を号外にてお伝えいたします。

今国会初質疑は経済産業委員会です！！

1. 日本経済とものづくり産業について



日本のものづくり産業に対する、経済産業省のスタンスは？

山下政府参考人：全就業人口の約2割を占め、一人当たりの付加価値額が全産業平均の約1.3倍ある、我が国の経済を支える極めて重要なセクターである。

A



ものづくり産業が発展していくためには、何が必要と考えるか。

西村大臣：世界の潮流の中で、カーボンニュートラルの実現に必要な設備投資、環境整備が必要。また、サプライチェーンの強化等、課題を解決しながら国内生産基盤を強化する。ものづくり産業が世界をリードする存在を目指し支援をしていく。



2. 構造的な賃上げと人材の定着について



構造的な賃上げの趣旨は？想定している雇用移動先や求められるスキルは？

飯田政府参考人：構造的な賃上げは、賃上げによる高スキル人材の確保、生産性向上を目指している。スキルとしては、デジタル分野、グリーン分野が中心となる。

A



リスクリングになじまない職種であるものづくり産業は、リスクリング、転職になじむ職種と賃金格差が広がるのではないかと。

西村大臣：マーケットで決まる面もあるが、全体としてキャリアアップしながら賃上げすることが必要なので、リスクリングをしっかりと進めていきたい。



ものづくりの現場を支えているのは、熟練技術である。技術継承には人材定着が不可欠と考えるが、現状では人材定着せず技術継承できていない。政府としてどう考えるか。

山下政府参考人：産業の競争力維持には人材投資が必要不可欠である。高い技術力、現場力を支えているのは熟練技能者である。経産省としても意欲向上を目指した取り組みをしている。

原口政府参考人：産業の維持には、担い手の確保が非常に重要である。厚労省としても、ものづくりの魅力発信や若者技能者の技術向上のため、ものづくりマイスター等取り組みをしている。

A

3. 特別高圧について



電気料金高騰による、特別高圧契約企業への影響について把握しているか

松山政府参考人：昨年11月の最新データでは、半年間に電気料金は34%上昇している。一般論でいえば、中小企業のエネルギーコストの転嫁率は3割と認識。ものづくりの現場や企業には負担が大きいのしかかっていると認識している。

A